

## 金曜の会

期日 7月5日

場所 倉敷労働会館

参加者 O、HA、CH、AK、AR

内容

ポスター (AK)

記録「一つの花」(AR)

ポスターは、遠くから見ても伝えたいことが伝わる必要があります。なので、どんなに上手でも小さい絵はよくありません。いかに、情報を少なくして伝えたいことだけに限定するかが鍵となります。アイデアスケッチの段階でそれを子どもに考えさせ、アイデアの中からさらに伝えたい情報を絞らせる必要性を学びました。

ARの「一つの花」の授業は例によって言葉から離れて、一般論になっていました。教師が選んででも、読ませたい文を限定し、そこで問題づくりをしていかなければ言葉に即した授業はできないことを痛感しました。 AR

昨日は、僅かな時間ですがおよそ1か月ぶりに金曜日の会に伺うことができました。CH先生が一覧形式で『雀の子』の授業分析を出されているところでした。その後、HA先生からは『春』の教材解釈(どこで何を問題にするか、窓口にするか、どれだけ問題が作れるか)が出されました。そして、O先生からは、問題作りと相互の関係、どこでも窓口になりうることや、でも教師が見通しを持っていなければならないことについてお話しされました。会の終わりにAK先生がたくさんのポスターを抱えていることに気付きました。子どもたちがていねいに塗り始めているところでした。短い時間でしたが、たくさんの刺激をいただきました。私も、ゆっくりではありますが、2学期に向けて少し見通しを持って、実践を再スタートしたいと思います。伺えて、本当に良かったです。ありがとうございました。YO